

日光銀山平キャンプ 2019



2019年9月

旅のチカラ研究所 植木圭二

高校時代の仲間たちとキャンプで楽しい一夜を過ごしてきた。この旅行記は写真を主役に構成してみた。

■気分は高校生

高校時代、私の住む群馬県桐生市には高校が7校あったがその交流は少なかった。その中で私たちは高校の枠を超えた「桐生青春友歩」という自主サークルを作り運営していた。

それから45年以上経ち、最近その当時のメンバーたちと何度か旅行に行っており、今回は栃木県日光市足尾にある庚申山の麓の「銀山平キャンプ場」にやって来た。ここは近くにある国民宿舎かじか荘が運営している公営キャンプ場で管理が行き届いている。緑の山に囲まれた広々としたテントサイトと、それを囲むようにバンガローや炊事場、トイレがある。

ここで45年の歳月を飛び越えて、気分は高校生のキャンプが始まる。



【キャンプサイト 参加メンバーたち】

■テントとバンガロー

テントとタープを持ち込み、9月のこの時季は雨の心配もあるので、ちょっとリッチなバンガローを一棟借りた。バンガローには2段ベッドが2式、4畳くらいの畳の間があって、電気設備もトイレもキッチンも付いており、少し離れた共同の炊事場やトイレに行く必要もない。



【持ち込んだテントとタープ】



【借りたバンガロー】

■ キャンプ風景

明るいうちにテントを設営し食事の準備をしながらまずは冷えたビールで乾杯、これは高校時代には味わうことができなかったことだ。

45年のブランクを感じる間もなく宴が始まり、暗くなってからはキャンプファイヤーならぬ焚火で語らう大人の時間になる。語らいにはホットワイン、七輪で焼く焼き鳥がよく合う。



【まずは乾杯！】



【焼き鳥をつまみに夜も宴会が続く】

■就寝、そして朝

女性陣には初めてテントに泊まるというキャンプ初心者もいたので、テントは女性陣に明け渡し、男性陣はバンガローで寝た。テントの中からは彼女たちの賑やかな声が夜遅くまで聞こえ、それだけ聞いていると女子高生の一団のようだ。とにかく相当盛り上がっていた。

朝起きて感想を聞くと、テントやシュラフ（寝袋）がこんなに快適だとは思わなかったと感激し、これから老後はキャンプを趣味にしたいなどと言っている。

朝食はスクランブルエッグとサラダとハム、これにパンとコーヒー、そしてリゾットも加わり、山の中の新鮮な空気もおかずにして幸せな朝食になる。



【朝食の一品】

■旅の記録

実施は2019年9月21日（土）～9月22日（日）の2日間、その行程を以下に示す。

- ・1日目 10時群馬県桐生市に集合、買い出しをして12時にキャンプ場チェックイン
- ・2日目 朝食後10時にチェックアウト、かじか荘で立ち寄り湯をして昼食後に解散

キャンプに要した費用は全体で約3万円、一人当りは約5000円、内訳を以下に示す。

食材や飲み物	約10000円
テント持ち込み料金	2800円
タープ持ち込み料金	1100円
バンガロー（ログハウスタイプ）	15000円
薪×2	1000円

■アイテム

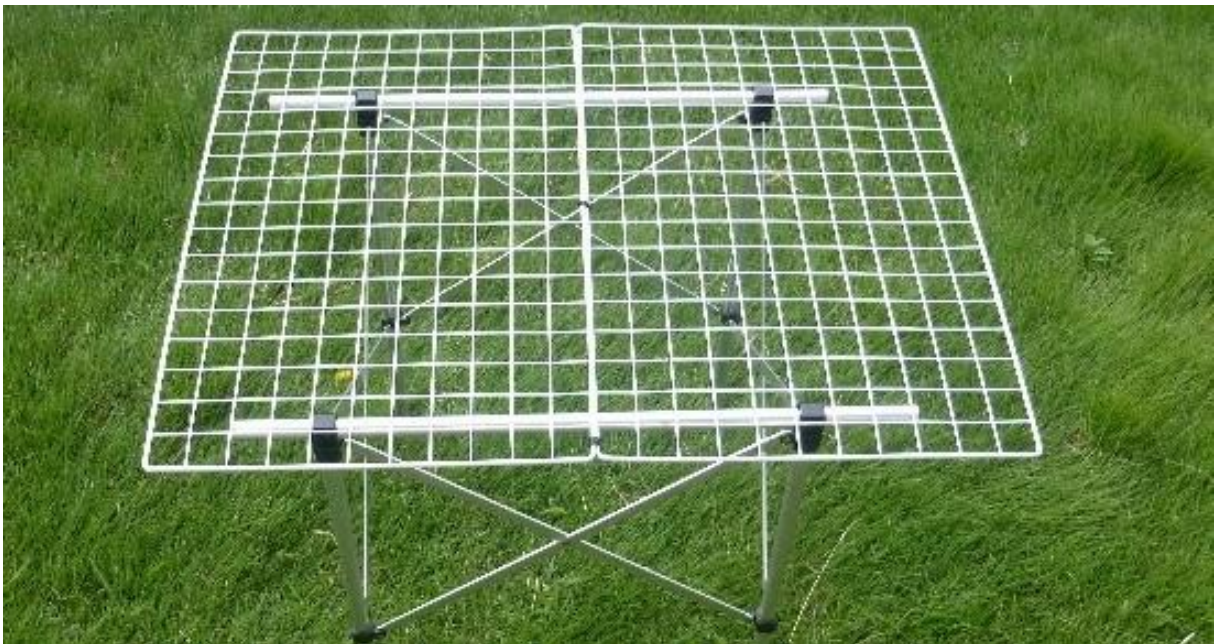
キャンプ歴 350 泊の私のアイテムを紹介しておこう。

25 年程前に自作したテーブルは七輪が入るように真ん中に穴をあけ、その穴をふさぐ板もある。これは実に便利だ。



【七輪が入る自作のテーブル】

そして金網を天板にしたテーブルは実に軽い。キャンプではテーブルに皿やコップは置くが、板である必要はない。むしろフックなどで下にビニール袋などを掛けられるから便利だ。



【金網の簡易テーブル】